

関西大学工学部 正会員 ○井上雅夫

関西大学工学部 紺屋 満

## 1. まえがき

この研究の最終的な目標は、高齢者や障害者を含むすべての利用者にとって、海水浴場の望ましい姿を提案することである。このため、まず、現在の海水浴場に対する高齢者の意識調査を行い、その問題点を明らかにしようとした。

## 2. 調査方法

調査は、大阪府岬町淡輪（調査日：2000年7月29日および30日）、阪南市の箱作（2000年8月2日）、泉南市の樽井（2000年8月5日）、貝塚市二色の浜（2000年8月6日）、神戸市の須磨（2000年8月13日）、神戸市のアジュール舞子（2000年8月19日）および明石市の大蔵（2000年8月19日）の合わせて7カ所の海水浴場で行った。まず、それぞれの海水浴場において、海水浴や散策などを行っている高齢者を対象に、海水浴場についての意識を直接面談によってヒアリングを行った。なお、それぞれの海水浴場の調査対象数は、淡輪 34 名(男 22、女 12)、箱作 6 名(男 3、女 3)、樽井 11 名(男 8、女 3)、二色の浜 25 名(男 18、女 7)、須磨 24 名(男 17、女 7)、舞子 15 名(男 10、女 5)、大蔵 13 名(男 8、女 5)であり、合計では 128 名(男 86、女 42)になる。また、これらの調査対象者は、おおむね 60 歳以上の高齢者である。

## 3. 調査結果とその考察

調査を行ったそれぞれの海水浴場について、バリアフリーの程度を数量的に表現するため、表・1 に示すようなバリアフリーに関する定義を行った。図・1 には、この定義に基づいた評価結果を、それぞれの海水浴場についてレーダーチャートで示した。これによると、いずれの海水浴場についても、ハード面はある程度の整備がなされているが、ソフト面の整備が立ち遅れていることがわかる。さらに、図・2 には、このバリアフリーに関する平均評価値と高齢者の意識との関係を示した。ここに、高齢者の意識とは、前述の調査において、「この海水浴場はバ

表-1 バリアフリーの定義

| (i) 専用駐車場        |                          | (ii) 専用トイレ      |       |
|------------------|--------------------------|-----------------|-------|
| 評価               | 定義                       | 評価              | 定義    |
| 5                | 10台以上                    | 5               | 4カ所以上 |
| 4                | 9～7台                     | 4               | 3カ所   |
| 3                | 6～4台                     | 3               | 2カ所   |
| 2                | 3～1台                     | 2               | 1カ所   |
| 1                | 0台                       | 1               | なし    |
| (iii) 専用(無料)更衣室  |                          | (iv) 専用(無料)シャワー |       |
| 評価               | 定義                       | 評価              | 定義    |
| 5                | 2カ所以上                    | 5               | 2カ所以上 |
| 3                | 1カ所                      | 3               | 1カ所   |
| 1                | なし                       | 1               | なし    |
| (v) スロープ         |                          | (vi) 休憩所        |       |
| 評価               | 定義                       | 評価              | 定義    |
| 5                | 2カ所以上                    | 5               | 4カ所以上 |
| 3                | 1カ所                      | 4               | 3カ所   |
| 1                | なし                       | 3               | 2カ所   |
|                  |                          | 2               | 1カ所   |
|                  |                          | 1               | なし    |
| (vii) ランディーズ     |                          | (ix) ライフジャケット   |       |
| 評価               | 定義                       | 評価              | 定義    |
| 5                | 10台以上                    | 5               | 10着以上 |
| 4                | 6～9                      | 4               | 6～9着  |
| 3                | 2～5                      | 3               | 2～5着  |
| 2                | 1台                       | 2               | 1着    |
| 1                | 0台                       | 1               | 0着    |
| (viii) ライフセーバー体制 |                          |                 |       |
| 評価               | 定義                       |                 |       |
| 5                | しっかり整っている                |                 |       |
| 3                | 試験的に体制を整えている(準備段階)       |                 |       |
| 1                | 整っていない                   |                 |       |
| (x) 広報活動         |                          |                 |       |
| 評価               | 定義                       |                 |       |
| 5                | 活動しており、バリアフリーを強調している     |                 |       |
| 3                | 活動しているが、あまりバリアフリーにふれていない |                 |       |
| 1                | 活動してない                   |                 |       |

リアフリーであると思いますか」という質問に「はい」と回答したものの全調査者に対する百分率である。なお、箱作海水浴場については、調査対象者数が6名で少ないため、これを除いて検討した。これによると、平均評価値と高齢者の意識との間には明確な対応関係が見られ、著者の提案したバリアフリーの評価法がある程度までは適用できることを明らかにした。なお、詳細は講演時に述べる。

最後に、本研究を行うに当たり、現地調査に大いに協力して頂いた多くの高齢者の方々に謝意を表すとともに、調査に助力して頂いた島田広昭助手や関西大学海岸工学研究室の学生諸君、特に、本文のとりまとめをしてくれた玉田崇さんおよび倉橋亜紀さんにも深く謝意を表する。

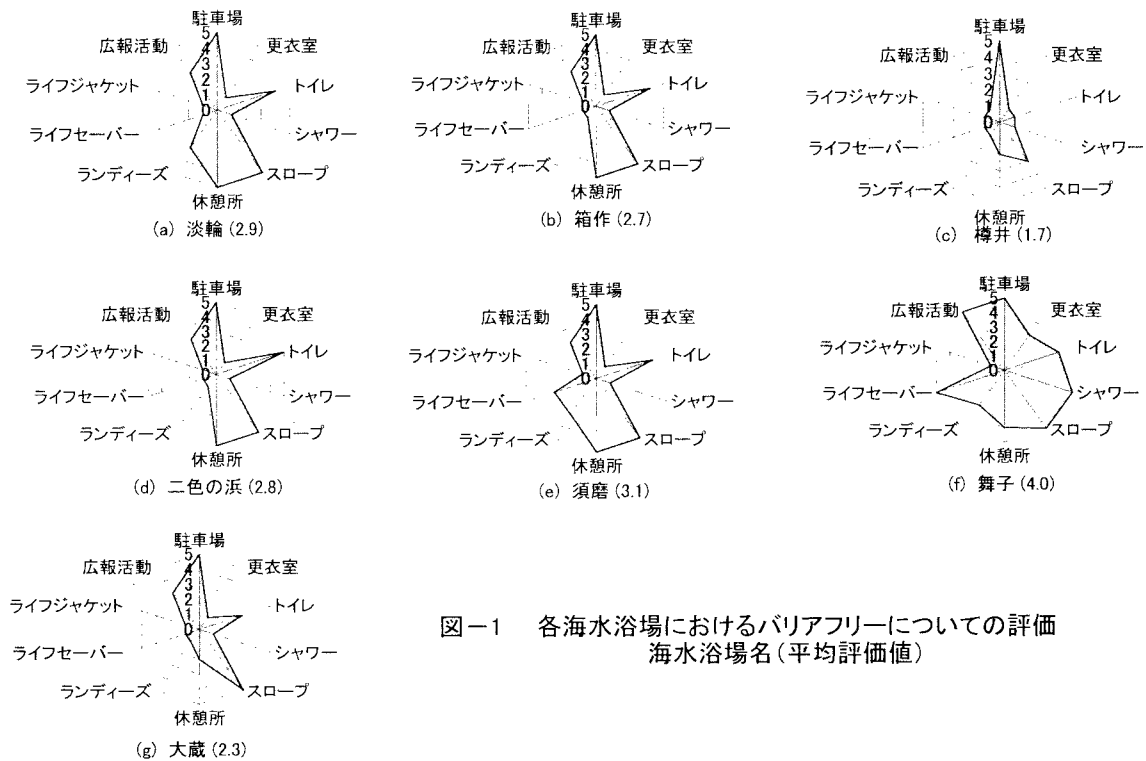


図-1 各海水浴場におけるバリアフリーについての評価  
海水浴場名(平均評価値)

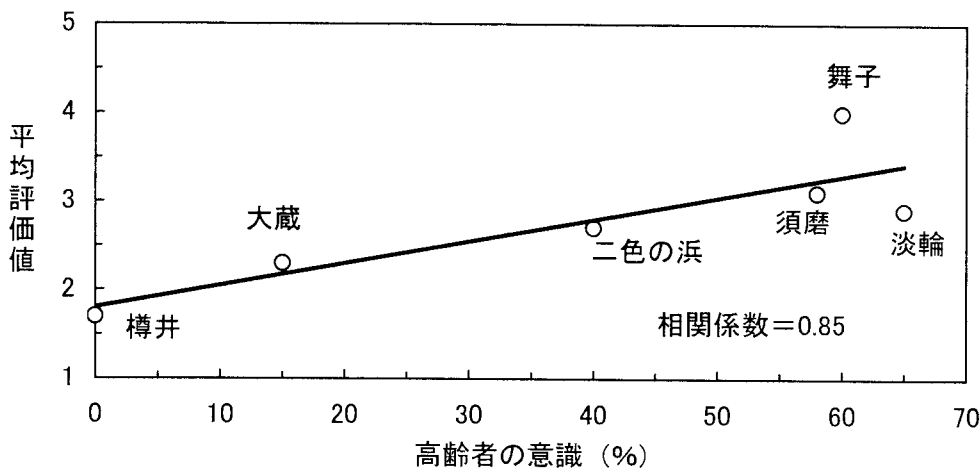


図-2 平均評価値と高齢者の意識との関係